

子ども未来園 施設整備 10 ヶ年計画

令和元年 1 1 月

犬山市教育部子ども未来課

1 施設整備計画の目的

子ども達をとりまく社会情勢は、少子化の進行、女性の社会進出に伴う子育て環境の変化、地域のつながりの希薄化による子育て不安を抱える保護者の増加など、社会全体で子ども・子育て支援を推進していく必要があります。

子育て支援を推進していく中で、子ども未来園は、子どものよりよい育ちを実現するため、豊かな感性を育て、心身ともに健全な人間性を育成するための場としての役割を果たすべき重要な施設であると認識しています。

市内の子ども未来園は、保育所が11園、認定こども園が2園、合計13園ありますが、施設の経年劣化による老朽化や多様化する保育ニーズに対応するため、整備方針を考えることが必要となり、平成28年度より、以下の4つの項目を示し検討を進めてきました。

- ① 現在の子ども未来園（13園）のままで延長保育等の保育機能を集約する。
- ② 指定管理者制度を導入する。
- ③ 子ども未来園を集約（統合）する。
- ④ 子ども未来園を集約し、その一部を私立保育園とする。

以上を踏まえ、平成30年1月、子どものより良い育ちを実現するための環境整備を進めていくため、「子ども未来園の今後のあり方」を作成し、「保育機能の見直しと集約化」、「子ども未来園の統合」についての方向性を定め検討を進めてきました。

未来を担う子どもの健やかな成長を願い「子ども未来園の今後のあり方」を踏まえ、多様化する保育ニーズの増大への対応と、効率的・効果的な施設整備の充実を図ることを目的とし、子ども未来園施設整備10ヶ年計画を策定しました。

2 計画期間

本計画の計画期間は、令和2年度から令和11年度までの10年間とします。

3 計画の位置づけ

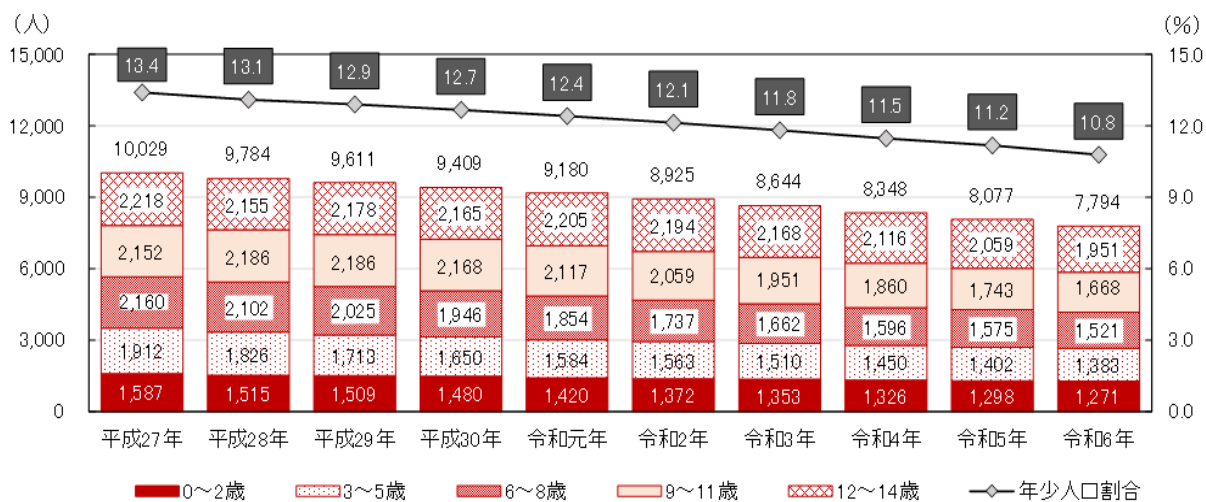
平成29年3月にファシリティマネジメントの考え方を取り入れた「公共施設等総合管理計画」が策定され、「施設の長寿命化」「定期的な点検の実施」を推進するため、子ども未来園をはじめとする公共施設について、「公共建築物の個別施設計画（以下「個別施設計画」という）」として令和3年4月公表に向け、現在作成がすすめられています。

このため、現時点で早期に着手すべきものを示し、令和3年に策定する「個別施設計画」で施設全体の方針を改めて示すこととします。

4 年少人口の推移と推計

(1) 年齢区分別年少人口の推移と推計

令和6年までの年少人口の推計をみると、平成27年以後、減少が続いています。令和元年以降の推計でも減少していく予想となっており、令和6年には7,794人と、平成27年と比較すると2割程度の減少となっています。



資料：平成27年～平成30年実績：住民基本台帳・外国人登録台帳（各年9月30日現在）

令和元年～令和6年推計：コーホート変化率法により算出

(2) 市内在住児童の利用実績及び今後の見込と在園児割合

3歳未満児の人口は減少と見込むものの、保育ニーズは高まりの状況にあるため、在園児割合としては上昇傾向にあるものと見込みます。

3歳以上児の在園率は、ほぼ横ばいと見込みます。

① 0歳児 (H31年度以降は見込)

単位：人

	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
園児数	62	69	68	60	62	60	60	60	59	59
0歳児人口	493	481	468	459	455	448	439	429	421	412
在園児割合 (%)	12.6	14.3	14.5	13.1	13.6	13.4	13.7	14.0	14.0	14.3

各年度3月1日現在

② 1・2歳児 (H31年度以降は見込)

単位：人

	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
園児数	339	322	336	363	359	357	367	373	378	383
1・2歳児人口	1,094	1,034	1,041	1,021	965	924	914	897	877	859
在園児割合 (%)	31.0	31.1	32.3	35.6	37.2	38.6	40.2	41.6	43.1	44.6

各年度3月1日現在

③ 3歳以上児 (H31年度以降は見込)

単位：人

	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
園児数	935	869	806	781	779	739	714	686	663	654
3～5歳児人口	1,912	1,826	1,713	1,650	1,584	1,563	1,510	1,450	1,402	1,383
在園児割合 (%)	48.9	47.6	47.1	47.3	49.2	47.3	47.3	47.3	47.3	47.3

各年度3月1日現在

5 子ども未来園施設状況

13園の多くは、建築後40年から50年前後経過し、経年劣化、老朽化が進行し、総合管理計画で示されている標準耐用年数（65年）の到来に伴う施設の更新時期が集中する状況にあります。

地区	園名	構造	建築年	構造階数	延床面積(m ²)	築後(年) (R1年現在)	備考
犬山	五郎丸	鉄骨造	1972 (S47)	1	1,050.28	47	H19・H20 大規模改修済
	橋爪	鉄筋コンクリート造	1980 (S55)	1	943.83	39	—
	上木	鉄筋コンクリート造	1975 (S50)	2	1,066.74	44	H25 大規模改修済
	丸山	鉄骨造	1974 (S49)	1	982.05	45	H22 大規模改修済
城東	城東	鉄筋コンクリート造	1979 (S54)	2	1,251.14	40	—
	城東第2	軽量鉄骨造	1974 (S49)	1	938.95	45	H18 大規模改修済 R1 耐震改修工事
	今井	鉄骨造	1979 (S54)	1	432.67	40	H20 大規模改修済
羽黒	羽黒北	鉄骨造	1971 (S46)	1	946.78	48	H17 大規模改修済 R1 耐震改修工事
	羽黒	鉄筋コンクリート造	1980 (S55)	2	1,213.63	39	H22 大規模改修済
	羽黒南	鉄骨造	1975 (S50)	1	968.21	44	H21 大規模改修済
楽田	楽田西	鉄骨造	1973 (S48)	1	995.31	46	H20 大規模改修済
	楽田	鉄筋コンクリート造	1983 (S58)	2	1,224.98	36	—
	楽田東	鉄骨造	1975 (S50)	1	971.88	44	H21 大規模改修済

6 子ども未来園の抱える現状と課題

(1) 施設整備面

- ① 多くの園が建築経過年数50年近くとなり施設の老朽化が進行している。
- ② 現在の園舎の建築当初は、3歳以上児の保育を中心に想定していたため、3歳未満児の保育に対応する施設が不十分である。
- ③ 保護者の多くは、車での送迎が多いため、駐車場が不足している。

(2) 少子化と保育ニーズの変化

- ① 園児数の減少により、各園で複数クラスの編成ができない状況であり、集団保育の中で養われる社会性や人と関わる力などが育ちにくい環境になっている。
- ② 多くの保育士が必要となる3歳未満児のニーズが増加しているため、保育士確保が厳しくなっている。

7 課題解決のため実施してきた事項

平成27年度から、保育機能を集約することにより、以下の項目について実施し、よりよい保育環境の提供と適正かつ効率的な保育士の配置を行ってきました。

- ① 土曜保育の集約（平成27年度から）
- ② 丸山保育園の2歳児からの受入（平成27年度から）
- ③ 障害児保育の集約（平成29年度から）

8 課題に対する検討結果

- ① 子ども未来園は、施設の老朽化が進み、建て替え、修繕等が必要です。
同時に、保育サービスの維持向上を踏まえ、保育ニーズにあった環境整備を整える必要があると考えます。（3歳未満児の需要の増加に対応が必要です。）
- ② 市の財政負担の面では、施設整備費や運営費について、民間事業者が実施する場合、国・県の補助金の対象となりますが、市が実施した場合は、制度の対象外となるため全額負担となります。
従いまして、園舎建て替え時期にあわせ、民間活力を活用し、民営化をすすめていくことも手段のひとつであると考えます。

9 施設整備における基本方針

前述しました、本市が抱える課題と検討結果により、子ども未来園の施設整備の基本方針を以下のとおり定めました。

- ① 園舎の老朽化等による施設更新
- ② 未満児保育の受入人数の充実（3歳未満児保育ニーズに対応）
- ③ 地域的事情（橋爪・五郎丸）、借地期間満了（羽黒）など事情により優先順位の高いものから着手。（概ね10年程度で実施）
- ④ 子ども未来園の統合にあわせた一部民営化（民設民営）
- ⑤ 市内全体の保育所定員数は維持
- ⑥ 橋爪・五郎丸・羽黒・羽黒北以外の施設は、個別施設計画の中で建替え、修繕等を検討していく。（個別施設計画：令和3年4月公表予定）